

一級河川の都市 加古川 水を訪ねるコース

コンセプトポイント



1 寺田池
 兵庫大学に隣接している池で、平安時代の892年ごろに築造されたと考えられている。明治、大正、昭和と工事を繰り返し、今の形になった。寺田池の周りはきれいに整備されており、一周することができる。また、水鳥の観察小屋も設けられており、シギやカモなどの生物も観察することができる。

チェックポイント 加古川周辺で3番目に大きいため池。周囲は約1.5kmで散策が楽しめる。



2 狐池
 寺田池から、間に今池というため池をはさんで水路でつながっているため池。昔、雑木林と池の一部だったところを埋め立て、北野公園という公園が造られている。遊具やグラウンドがあり、地元の人々の触れ合いの場となっている。池の中央には島があり、水鳥が生息している。



3 平木橋
 昔から農業用水の確保に苦労してきた地域のため、この橋は1915年に神戸の淡河川と山田川から、平木池へと農業用水を引く疎水事業の一環として建造された。しかし、疎水事業の端に位置していた平木池が貯水池としての機能を発揮できなかったため、1940年代には平木橋も放置されるようになった。その後、2009年に東播磨南北道路建設のため現在の場所に移築された。

チェックポイント 水不足と闘った地域の歴史を象徴するシンボルとして2010年3月に加古川市有形文化財に指定されている。



4 馬ヶ池
 加古川で仏教を普及させたことで有名な教信上人が土地の人にもらった鮒を食べたところ、それを見た者から「僧にあるまじき行為」と非難された。そこで教信上人はその者を馬ヶ池へ連れていき、「仏道修行者は魚を食うもよし、食わぬもよし」と口から吐き出したところ、鮒は何事もなかったように泳いだと伝えられている。

瀬戸内式気候の播磨では、古くから降水量が少なかったため、ため池を作り水源を確保してきました。このコースでは、農業用水を引くために昔の人々が知恵を絞り、疎水事業を行った努力の跡である平木橋や加古川周辺で3番目に大きいため池である寺田池を訪れることができます。今でも田畑の多く残る加古川の街並みを眺めながら、昔の人々の水に対する思いを感じとってみませんか？



【凡例】
 〓 モデルコース (約11.0km)
 1~4 コンセプトポイント
 A~F よりみちポイント
 トイレ 喫茶 レストラン 自販機 P

©That's & Trial 2010